

第10回南区自治協議会 会議概要

日 時 平成30年1月31日(水) 午後2時～午後3時25分

会 場 新潟市南区役所4階 講堂

- 次 第
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 南区まちづくり活動サポート事業募集要項について
 - 3 報告・連絡事項
 - (1) 部会報告
 - (2) 「南区お土産アイデアコンテスト」本選会審査結果について
(産業振興課)
 - (3) 区自治協議会会長会議の報告
 - (4) その他
 - 4 次回全体会の日程について
2月28日(水) 南区役所 午後2時から
 - 5 閉会

事前配布資料

資料1 南区まちづくり活動サポート事業募集要項(案)

当日配布資料

資料2 部会報告

資料3 「南区お土産アイデアコンテスト」本選会審査結果について

資料4 「区自治協議会のあり方検討の方向性について(参考意見聴取)」全区回答まとめ

出席委員：斎藤栄樹委員，山際和美委員，田村義三郎委員，青木智子委員，小林 誠委員，小柳雅弘委員，有田正己委員，小林公子委員，鞠子幸一委員，富井 敦委員，笹川和代委員，内城大三郎委員，田辺静子委員，中野幹也委員，小嶋ノリ委員，豊岡博子委員，原 正行委員，渋川博子委員，大那 孝委員，町屋参吉委員，山宮勇雄委員，児玉一幸委員，和泉美春委員，早見真由美委員，小田信雄委員
以上25名

欠席委員：吉村卓也委員，渡邊喜夫委員，鈴木照子委員，田中容子委員，本間智美委員

事務局：渡辺区長，高野副区長，川瀬地域課長，拝野地域課長補佐，藤村総務課長補佐，佐久間地域課主幹，新井田同係長，宮本同係長，大塚同主査，笠原同主査，野田同主事

関係課：高橋区民生活課長，中村健康福祉課長，金澤産業振興課長，吉田建設課長，島倉味方出張所長，登石月潟出張所長，大坂南区教育支援センター所長，牛腸白根地区公民館長

傍聴者 3名

(午後2時00分)

1 開会

○事務局(拝野地域課長補佐) (配付資料の確認)

○議長（小田会長） おそろいでおいでいただき、感謝申し上げます。

あけましておめでとうございますと申し上げないうちに、本日が1月の晦日である。日のたつのが早いもので驚いている。

10日ほど前に、東京を中心にして23センチの雪で、首都機能がまひした。同じころ、私も新潟市の西区を中心とする旧新潟エリアで80センチ強の雪で、およそ1週間、まちの機能がまひした。もちろん新潟の80センチも、短時間のうちの降雪であり、さまざまな機能と整合しないで混乱に陥ることは、やむを得ない面もあったと思う。東京の23センチ、あれほど警戒の情報が流れていたにもかかわらず、やはりおよそ1日半、首都のさまざまな機能がまひした。こういう状況と現下のさまざまな社会情勢を考えていると、いかに都市の機能が自然のさまざまな様相からかけ離れた形で成立しているものか。都市というのがいかに自然に対して弱いものか。そして、わがままな形で都市の機能が成立しているものか驚いてしまう。

例えば、南区が六十数センチの積雪だったそうだが、ほぼ同じ積雪であっても、私どものエリアでは、西区域のような混乱は少ないレベルで終始することができた。広い区域とさまざまな都市計画に基づいたまちづくり。広範な田園を抱えているという立地上、西区のようなパニックは回避できた。人口と経済がすべてのところで集中をはじめている。私どもの新潟市のまちづくりも、今、冷静に考えてみると、人口の集中するところ、経済の規模の大きいところに、数の論理ですべて集中されるきらいがある。12年前に、新潟市と旧白根市、味方村、月潟村が新しいまちづくりを目指して大同合併をした。そのときの大きな柱が、豊かな田園を抱える田園都市新潟であった。いわゆる疎も密も併せ持った高邁な新潟市の構想でまちづくりをスタートさせたはずだ。そして、そのおのおのが機能を分権、あるいはシステムを併せ持つ分権型の協働都市。いわゆるおのおのが自治を抱える新たなまちづくりを大きな柱としてスタートした。ところが、現下の経済や政治は人口の集中するところに力が傾注される、あるいは政治力がそこへ集中するというような極めて不均衡な形。これにややもするとなろうとしている。

極端に言うと、先ほど申し上げたように、23センチで機能がまひをする。80センチで生活が立ちゆかなくなる。そういう不均衡なまちの姿にならざるを得ないのが、今の姿である。幸いにして、私ども南区の皆さん方、この自治協議会を中心にして、新たなまちづくり、本来の分権と協働、自治と協働、この旗印を依然高く掲げているので、私どもはそういう進路については、そう悲嘆も、悲観もしていない。どうか今日、そういう一つの自然災害における事例もふまえながら、今の新潟市のありようをつぶさに検証いただきたいと思うし、本日、用意された議案、議題についてのご意見をちょうだいでできればと思っている。お忙しい中のお集まり、重ねて感謝する。ありがとうございました。

本日の次第に沿い、会議を始める。

欠席者の報告

傍聴者の報告（所定の手続きを経て、傍聴していることを報告）

2 議事

（1）南区まちづくり活動サポート事業募集要項について

○議長（小田会長） まず、次第第2（1）南区まちづくり活動サポート事業募集要項についてお諮りする。

○事務局（川瀬地域課長） 南区まちづくり活動サポート事業募集要項についてご説明する。資料1をご覧ください。

平成30年度南区自治協議会提案事業「南区まちづくり活動サポート事業募集要項（案）」である。この事業自体は、昨年11月29日開催の本会議にて、「部会の役割について」ご審議いただいた中で実施することに決定した。一方でそのときに「早めに周知してほしい」といった要望も出された。そこで今回は、要項の中身やスケジュール感についてご審議いただければと思う。

表紙の四角囲みの中をご覧ください。南区自治協議会では、各部会を中心にして、地域課題の解決に向けた区自治協議会提案事業を行っている。平成30年度からは、区自治協議会提案事業の一部を「南区まちづくり活動サポート事業」として、地域課題の解決につながる事業を公募し、委託事業として実施する。本事業は、予算議決前に募集するため、「平成30年2月定例

市議会で、平成30年度一般会計予算が可決された場合に事業実施となる」という但し書きを付記している。なお、平成30年度予算が市議会に上程されないと周知できないという制約もある。2月16日以降ということで予定している。

裏面の1ページをお開きいただきたい。南区まちづくり活動サポート事業の内容である。はじめに(1)対象事業である。南区内に主たる活動拠点を有する非営利の団体が、南区自治協議会の事業募集に応募して実施したい、あるいは南区自治協議会と連携して実施したい事業で、南区区ビジョンまちづくり計画に掲げる「目指す区のすがた」のいずれかに該当し、次の①から④のすべてに該当する事業を対象事業とする。

次に(2)事業費である。1事業につき50万円以内とし、市からの委託料としてお支払いする。

次に(3)対象経費である。事業に直接要するもので、必要最低限の経費を対象とする。①から⑥に掲げる団体の事務所や経常的な活動などに要する経費は対象外となる。

2ページをお開きいただきたい。応募方法である。はじめに(1)の募集説明会である。応募締切の2週間前の4月12日に募集説明会を開催する。この募集説明会への出席が応募の条件となるので、応募を検討している団体の方は、必ず出席していただくことになる。

次に、(2)申請書類である。申請にあたって、①事業提案書、②収支予算書、③団体の概要に関する調書、定款・規則・会則等、④暴力団等の排除に関する誓約書兼同意書を提出していただく。ただし、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会は③の書類は省略可とする。

次に、(3)応募締切である。4月26日(木)までに郵送、メールまたは持参により申請書類を提出していただく。

3ページ、審査についてである。はじめに(1)審査基準である。これについては、①地域の課題解決性、②実現性、③継続性の三つの基準で審査する。

次に、(2)審査方法である。書類審査による一次審査、プレゼンテーション審査による二次審査を実施し、採択事業を決定する。

次に、(3)審査員である。審査は、南区自治協議会で行うこととする。

3ページの下段に、今まで説明したスケジュールを表にしてあるので、ご覧いただきたい。先ほど少し話したが、平成30年度の予算が市議会に上程されないと周知できないということで、それが2月16日になる。また、一方で4月に多くの団体の総会などが予定されていると思われるが、一部の方からは、新体制になってから申請したいという声も聞いている。それらのことを考慮し、今回のスケジュール案を作成した。ただ、スケジュールの中の6段目だが、二次審査(プレゼンテーション)の実施について、「平成30年5月15日(火)の午後7時」と記載しているが、地域課内で話をした中で、プレゼンテーションにかかる時間を考慮して、1時間早めの6時くらいからのほうがいいのではないかという話もあり、ここについても、今、7時からと書いてあるが、6時からでいいか、それともやはり7時からの方がいいかというあたりも、ぜひ皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思っている。

そして、注意事項、事業実施後に関する事項を4ページに記載しているので、こちらについてもご覧いただきたい。

そして、事業が完了したら、速やかに報告書を提出していただく。また、平成31年3月に開催する南区自治協議会に出席していただき、事業結果について報告をしていただく。5ページ以降は、様式となる。5ページは事業提案書、6ページは収支予算書、7、8ページは団体の概要に関する調書、9ページは暴力団等の排除に関する誓約書兼同意書となる。説明は以上となる。ご審議のほど、よろしく願います。

○議長(小田会長) 今、まちづくりサポート事業の内容について、事務局から説明をちょうだいした。すでに委員各位ご存じのとおり、9月に新たな南区自治協議会の部会のありようを目指して、特別部会を結成し、慎重に審議を重ねた結果、この事業をスタートさせることを11月の定例会で満場一致でご承認いただいた。以後、具体的な詰めを事務局、幹部役員の皆さん方、おのおのの部会長たちにもお諮りしながら、本日、お手元にお示しの成案に仕上がった次第だ。特に内容についてご意見もおありの方は、改めてお伺いするし、本日は市民の皆さん方やさまざまな団体、NPOの皆さん方にかんして周知し、多くの皆さん方からこの事業に意欲を持って

ただけるか。そのためにもスケジュールをどうすべきがベターか。これを中心にご意見をいただければと思う。今、事務局からお話のあった本事業のありようについて、改めてご質問なり、不明な点があればお受けするので、どうぞ発言をしていただきたい。ないようである。

今、お示しのスケジュールにしたがって、これから正式な表現では申し上げることが困難だが、本事業の募集をいち早く開始するための準備に入る。すでに本日、着席の委員の皆さん方も、中には自分の参加のグループに、11月の本会議の決定を受けて周知徹底をされている方もいるやに聞いている。そして、コミュニティの中にも、それならば私らの地域もということを検討されている方もいらっしゃるやに聞いている。何とかいち早く、これをお示しし、正式には2月16日からならざるを得ないが、市民の皆さん方の意欲を期待したいと思っている。このスケジュールについて、ご意見をちょうだいしたい。鞠子委員、このスケジュールについては、どのようなお考えをお持ちか。

○鞠子委員 この募集要項について、スケジュール的なところという意味だけではないが、懸念していたのは、先日のコミュニティ協議会会長会議でこの原案みたいなものがあり、私も棚村(大通コミュニティ協議会会長)から見せてもらったというものだが、コミュニティ協議会や自治会といったところが開催するというものよりも、先日、私も少し言ったが、例えば、私どもの黄金地域で、若いお父さんの会というのがあり、会則もないし、ただおまつりのときにみんなが黄色いジャンパーを着て活動しているというのがあって、例えば、そういうところがやると、何かイベントをやると実費で皆さん、ポケットマネーで餅つきをやったり、夏にキャンプファイヤーみたいなものやったり、子供たちとそういうイベントとしてやっている部分があるので、そういうものはひとつどうかなみたいな話を前にさせていただいたが、そういうところにかにこの案であろうと、この募集要項をどのようにアピールするかというか、知らしめるかというところが課題のような気がする。だから、どうしてもコミュニティ協議会などに入ってきたものもしっかりだが、これをいかにある程度、固まっているコミュニティ協議会や自治会ではなく、厚意でやっている部分にどうやって伝えるか。それを考えると、早めにこれを出して、もうされるというような状況であれば、平成30年度4月から入るわけだから、例えば、先ほどの子供たちの例で言えば、夏にそういうイベントをやるならば、このくらいのタイミングでいいのではないかという感はある。

○事務局(川瀬地域課長) PRについては、今回、スケジュール感をここで決めさせていただいたら、区だより、ホームページはもとより、チラシ、ここまで細かいものではないが、一枚手作りで、こういう制度があると、詳しくは聞いてくれというチラシを手作りで作って、それをいろいろなところに配布したいと思っている。4月の頭に自治会長の集まりで事業説明会がある。そのときにもぜひ周知したいと思っているので、先ほど、会長から話があったように、皆様からぜひ周知を私どももするのでお願いします。

○議長(小田会長) 大那委員、お宅の観光協会などでは、このスケジュールでどのような状況だろうか。無理があるか。

○大那委員 観光協会としては、この問題については、まだ協議は全然していないので、質問されても、何とも答えようがない。近いうちに三役会が開かれるので、またそのときでも皆さんにお話してみたいと思っている。何にせよ今、観光協会としても大変な問題を抱えているので、南区のほうから切り離されて、単独行動ということで、その問題のほうは逆に頭がいっぱい。それをどうするかということ非常に悩んでいるところである。

○議長(小田会長) では、この日程的には、さほど無理はないと受け取ってもよろしいか。

○大那委員 よろしいと思う。

○議長(小田会長) 中野委員、青年会議所やその他では、どのような受け止められ方をされているか。

○中野委員 時期的には、全く会議所は問題ないと、入れ替わっているので。周知というか、これはお伝えしておくので、応募があると思う。

○議長(小田会長) こちらのコミュニティ協議会の代表の皆さん方、このスケジュール及び少し地域によっては引っかかるというような点があれば発言をいただく。

○山際委員 茨曾根地区のほうは役員改正が12月締めで、1月で大体、総会をやり役員が替わ

っているので、このスケジュールでよろしいかと思う。ただ、運用するには、経費などあるが、食料費が足りないというのが一番の問題だが、食料費も大事なのでちょっとなと思っていた。

○議長（小田会長） 豊岡委員いかがか。お宅の団体の中では、この日程で無理ないか。

○豊岡委員 私はこれでいいかと思っているが、この時間が7時だったのが6時になるかと言われたが、5月というのは、まだ忙しい時期じゃないか。6時というのは、まだ外でお仕事をされている人もいらっしゃるかもしれないので、7時であればいいのではないかと思っている。

○議長（小田会長） 大事なことである。それこそ南区の特殊性もある。一番日の長い時期だから、6時はまだ明るい。豊岡委員の希望としては、むしろ7時のほうがいだろうということか。

○豊岡委員 私としては、5月なので。

○議長（小田会長） ほかに開催時刻を含めてでもけっこうだ。発言があればどうぞ。事務局も、7時にこだわらない。皆さん方から合意をいただければ6時もあり得るという発想である。ご意見がちょうどできないようである。この開催の時刻も原案どおり7時ということで、お示しのまちづくりサポート事業の案を削除して、具体的な募集に入るといふことにご賛同いただけるか。全員のご賛同をいただいたものと今、確認した。

3 報告・連絡事項

(1) 部会報告

○議長（小田会長） 続いて、次第第3（1）部会報告に入る。まず、おのおのの部会の現在の検討状況を各部長からお話いただく。まず、本日、第1部会の部長が欠席なので、副部会長の鞠子委員からお話いただく。

○鞠子委員 私ども第1部会においては、1月17日に会議内容として、平成29年度自治協議会提案事業評価、南区の防犯・防災啓発事業について、会議を行った。

協議結果として、平成29年度の自治協議会の提案事業について、今まで約9か月かけてやったことについて、みんなと議論したのと、また、平成28年度の内容も参考にしながら、次回に取りまとめることにした。評価の部分を自分たちがやったことはみんないいと思ってしまうが、なるべく数値で表して、次の目標値を数値で出せるようにということを基本に次回に取りまとめることとしている。また、事務局より、次年度の公共交通の運行体制についての説明をいただいた。また、防犯・防災啓発事業の一環として取り組んでいる新1年生を対象に、ランドセルにぶら下げる反射材等について、どういうものがいいのかというようなことについて話し合った。

○議長（小田会長） 続いて、これも残念ながら部長が欠席なので、第2部会の副部長、小林公子委員より願います。

○小林（公）委員 第2部会は、1月11日に開催された。会議内容としては、出会いの場づくり事業の振り返り、親子コンサートについて、平成29年度自治協議会提案事業事業評価についてである。

協議結果としては、出会いの場づくり事業の振り返りについては、婚活イベントの参加者アンケートの集計結果の報告があり、アンケート結果を次年度の事業企画の参考にさせていただくこととなった。親子コンサートについては、3月18日開催の「おやこで楽しむはっぴーライブ2018」の実施内容等の最終確認を行った。平成29年度自治協議会提案事業事業評価については、次回部会までに各委員が実施した事業の振り返りを行い、次回取りまとめることとした。

○議長（小田会長） 続いて、第3部会の小林誠部長、報告をいただく。

○小林（誠）委員 第9回の第3部会を平成30年1月16日に開催した。会議内容として、南区観光案内看板と事業の振り返りを行った。

協議結果として、南区観光案内看板については、アグリパークと笹川邸の看板設置の箇所の確認と表示内容についての意見を出し合って、2月の部会に決めるように考えている。それが決まったら、3月には看板の設置を行いたいと考えている。事業の振り返りについては、次回の部会で月潟市活性化事業の実施報告とル レクチュエブランディング事業の進捗状況の報告を受け、それを伴って事業評価を行いたいと思っている。

○議長（小田会長） 続いて、最後に広報部会の青木委員から報告をいただく。

○青木委員 1月22日に開催した。南区自治協議会だより第11号の記事の掲載内容について

話し合った。

○議長（小田会長） 今、四つの部会からおのおのの報告をいただいた。このことについて、皆様方からご意見をちょうだいする。なお、今日のご意見のちょうだいの方向であるが、もちろん今の会議内容についての質疑も受付するが、できればおのおのの部会の中で、事業の評価をどうとらえるか、それをふまえて次の年次にどう積み重ねてつないでいくか。このことについても、四つの部会の中で、恐らく意見交換をされたことだと思う。第1部会から、鞠子副部長が、できればだれもが見えるように数値も含めて評価をまとめていくべきだというご意見もちょうだいした。それと同じように、おのおのの部会の中で、平成29年度事業の評価という項目があったかと思う。今までどおり、一律の評価表にしたがってまとめていくのにあわせて、どういう視点、観点をとらえるべきかということをおそらくご審議いただいたのかと思う。そのことも含めて、部会長やほかの委員からもご意見があればちょうだいできれば幸いだ。

鞠子委員、先ほどの数値も含めて、大勢の人に見えるように評価を進めていくべきだというご意見があった。そのことについて、少し補足のご案内をいただきたいと思う。

○鞠子委員 先ほど言った内容というのは、私が今年初めて、第1部会に参加させていただいたわけだが、やる事業内容というのは、ほとんど決定されているような中で、私どもの第1部会では、区バスの乗車率を上げようというような活動をしているわけだが、これは区のビジョンやマニフェストということもあるが、例えば、平成30年度も同じような内容をやるときに、私どもが1年やったPlan, DoのどちらかというDoの部分だが、それに対するチェックを数字を入れて明確にしておかないと、次の平成30年度の活動、アクションに対して、やはりめりはないのではないかなという判断の中から、今、小田会長がおっしゃったような内容でまとめたいというのが個人的な意思で、それを皆さんにご理解していただいた部分は、第1部会の中では持っていると思う。平成28年度のを先ほども見たと言ったが、言葉は抽象的なものだし、自分たちが1年かけたものをだれも否定することはいやなことだから、ただ、いやなことであっても、悪かったであっても、やはりはっきり見えるようにしておかないと次に進まないという観点からお話をさせていただいた次第だ。

○議長（小田会長） 富井委員、この評価の議論については、富井さんの部会の中ではどのようにお話しされたか。

○富井委員 第3部会としては、数字で表すと、例えば、答えを出すという試験的な問題ではないので、鞠子さんが言われたように、自分がやったところはいい評価になる。区長がやれば、区長のいい評価しかつけない。だから、数字を出すというのは一番見えるのだが、非常に難しいというか、答えのない答えを出す問題なので、部会によってはできるものもあると思う。できるものは、そういう形でやったほうが、次へ持っていきやすいのだ。うちの第3はそれでつけるというのはどうなのか。部会ごとには、そういう形で持っていったほうがいいと思う。

○議長（小田会長） 大変貴重な意見だと思う。ほかにないか。今後、さらに各部会の中で、次年度へ引き継ぐための評価とまとめが議論されると思うので、今、お二人の委員から発言をいただいたが、決してこれが相反する、相容れない意見ではなかったかと思う。お互いの中で、これからの議論を積み重ねていっていただきたいと思う。

（2）「南区お土産アイデアコンテスト」本選会審査結果について

○議長（小田会長） 次第第3（2）「南区お土産アイデアコンテスト」本選会審査結果についてを議題とする。産業振興課から説明をいただく。

○金澤産業振興課長 資料3、今回、区づくり予算で実施した「南区お土産アイデアコンテスト」の本選会の審査結果について、ご報告する。この協議会では、前にもご案内したが、応募総数78件というたくさんの応募をいただいた。南区内が43件、南区外が35件、うち県外兵庫県から1件いただいている。そんな形でたくさん応募いただいた。関係者の皆様もいらっしゃるので、この場を借りてお礼申し上げる。

本選会については、先週1月23日（火）に行っている。一次審査を勝ち抜いた27件、各5分のプレゼンをしていただいた。4部門に分かれてプレゼンをしている。その後、夕方になったが、本選会審査会ということで、審査をしていただき、結果、その表のとおりの中身となってい

る。せっかくの機会なので、私から若干中身の説明をさせていただく。

まず、食品部門で商品化部門ということで、これはもうすでに商品として作り始めている。これを売りだそうということで、3点選ばれている。最優秀賞になったのが、ヤハチ菓子店ということで、南区のフルーツを使ったクラフティという、いわゆるプリン状のものだが、そこにフルーツを入れながら甘いお菓子を作るということで販売をしたいということで、店舗はないが、いわゆる受注販売をしたいということでのご提案が最優秀賞になっている。場所は味方にあるので、南区内のお店だということになる。

次の新郷屋というのが、江南区でお店を営んでいる方で、南区産のりんご酢を使った、果樹王国フルーツピクルスということで、ピクルスという少しすっぱめのものだが、そういったものを瓶詰めして、きれいな形の瓶の中に入れて販売するというので、これが優秀賞となっている。

御菓子司まさやは、月湯だが、ル レクチェサンドということで、いわゆる甘いお菓子の中のル レクチェクリームを挟んで売られるお菓子になっている。こういった形で、一応、3点選ばれている。

次に、商品化のモノ部門ということで、最優秀賞は合同会社アレコレである。これは中央区の上古町にあるヒッコリーというお店があるが、そこの方がいわゆるル レクチェ保湿バームという、タイガーバームという皆さん、どちらかというとお分かりになるかと思うが、ああいうバーム形式のものを保湿クリームとして作るということで、これを障がい者施設と連携して作っていくという発表をされた。この方が最優秀賞ということで取られている。

にいがたもよう研究所といって第一印刷の若手のデザイングループが、凧合戦をデザインして折り紙を作ったということで優秀賞。

まるごとというお店だが、白根高校の前にあるお店だそうだ。凧合戦が13組あるが、13組のそれぞれの組をモチーフにして、いわゆるイラスト化するとか、マンガ化をして擬人化して、それをキャラクターとして売ろうというような斬新な発想で進めた中身である。これも優秀賞。

特別賞ということで、しろね大凧タウンガイド。大凧タウンガイドは、南区の白根地区をガイド案内しているが、白根商店街を歩いてみると、なかなかあまり活気がないというのが現状だと思う。そういった中で、白根商店街のお店を対象に新しい賞品を作っていただくということで、もともと白根子（しろねこ）ということで、白猫という名前がついているので、その白猫をキャラクター化して、お店の商品に重ねていこうというご提案で、これが特別賞を取っている。

アイデア部門について、食品とモノ、同じように部門を分けているが、食品部門は新潟大学農学部の生徒が和梨を使ったゼリーを作りたいということで、皆さん、インターンとしてアグリパークの食品加工センターでいろいろな商品化をするためのインターン事業をやっている。ここで作ったものが和梨を使ったゼリー化ということで、これはアイデアなので、これを使ってぜひ私が売りたいという方がいれば、そのまま商品になると。すでに中央区の方から、私が商品にしたいという方も手が挙がっているので、そういう意味で言うと、なかなかいいアイデアだったということになる。

優秀賞は二つ入っている。新潟薬科大学のアヒージョという、いわゆるオリーブオイルの中に、南区産の野菜や果物を入れて料理にするような形のものとして聞いている。白根グレープガーデンのル レクチェを使った冷製パスタソースということで、冷たいスパゲッティになるが、そこにル レクチェを入れていこうということで、なかなかこれも斬新な発想だということで選ばれている。

モノのアイデア部門だが、桜沢さんというのは、凧合戦のときに、イヤホンに凧の図柄を入れたものを耳にしてまちを歩けば、凧合戦の雰囲気が高めるのではないかというアイデアをいただいている。この方は、南区の会社員の方ということで、南区の中で凧合戦をもう少し盛り上げたいというご案内があったということである。

優秀賞については、白根絞りのTシャツ、自撮り写真で作る！自分だけの凧、フラワーライトということで、それぞれ南区出身。白根絞りのTシャツの方は東京からUターンされて南区に戻ってこられたということで、その方が応募していただいたということ。次の作品については、新潟市の職員の農業技師の若手グループが集まりを作って、その中で提案したということである。特別賞に白根高校のフラワーライト、チューリップの球根をかたどったライトを提案された。こ

れは特別賞を取られている。白根高校については、前日にプレゼンのリハーサルもして、校長先生も交えながらやったということで、非常に盛り上がったということで、私ども、こういう形で募集したが、いろいろな方々が携わって、その中で一つのグループを作って何かを出そうということで、非常に私ども、こういう意味でも意義があったと思っている。

今日、これをお披露目したかったが、賞品が間に合わなかったものだから、これについては表彰式というものをご用意するので、そのときにオープン参加だが、ぜひ見てみたいという方がいらっしゃったら参加いただくと。まだ、会場と日にちは決まっていないが、これはご案内させていただきますと思う。

これで終わりではないということで、来年度に向けてもう一年、いわゆるビジネスプランコンテスト事業ということでの予算をいただいているので、商品化されたものを売る場所を提供するというので、一つは販売する機会ということであれば、夙合戦、風と大地。観光協会がいろいろな場所でセールスを行うので、そういったところにも持っていきこうということになる。

いただいたアイデア部門のアイデアについては、いわゆるマッチングをさせて商品化して売り出そうということで、来年1年、こういった事業に使うので、皆さんアイデア、その他、ご協力等がいただけるようだったら、またいただきたい。今回、審査員の方々が、それぞれの一線級の方が審査員をしているので、その方々にご協力いただきながら支援していくということで準備しているので、よろしく願います。

以上、報告になるが、ありがとうございました。

○議長（小田会長） 何だか元気の出そうな報告をひさしぶりにちょうだいした。今のお土産アイデアコンテストの本選の結果について、あるいはこの活動の全体でもよろしいが、質問やご意見があれば発言いただきたい。今日は、本間委員が欠席なので、先ほどの部会報告の中にも出たル レクチュエのフランスへのブランディング事業の報告などもいただければよかったが、残念ながらちょうだいできない。今、フランスのコニャックに南区のル レクチュエが里帰りして、お化粧直しして、もう一回戻ると計画であるが、非常に期待もしている。今の産業振興課長の報告について、ご意見をちょうだいする。観光協会の大那さん、再びだが、今の報告に期待がどのように高まっているか、少しお披露目をいただきたいと思う。

○大那委員 今ほど、議長からご意見をということだが、結果、商品化されるようなもの、また、テーマ部門。実際、私は拝見していないので、何とも言えないところである。できることなら、観光協会としても、目いっぱいできることは応援してまいりたいと思うし、課長がおっしゃったように、いろいろなイベントに観光協会は参加しているので、ぜひそこにはPRしていきたいと考えている。

○議長（小田会長） 原正行委員、商工会としての期待を少し願います。

○原委員 遅刻してすまない。今、聞いたばかりで頭の中が真っ白であり、回答が出ないので、すまない。

○議長（小田会長） ご意見、質問、ほかにないか。なければ、この報告を閉じ、次に移らせていただく。

（3）区自治協議会会長会議の報告

○議長（小田会長） 次第第3（3）区自治協議会会長会議について、ご報告する。私から、まず概要についてお話しさせていただきます。

大変な雪の中だったが、この25日、第4回の自治協議会の会長会議が本庁で開催された。全8区おそろいで、大変、極端な言い方をすると、激しい議論で会議を進めた。主たる議題は、お手元にお届けの区自治協議会のあり方検討についての意見でほぼ終始し、議論を交わしたものだ。まず、検討委員会の今後のスケジュールだが、2月9日に第3回の自治協議会あり方検討委員会を開催し、12月に各自治協議会で区自治協議会のあり方検討の方向性について意見聴取したものを取りまとめ、その結果を報告し、あり方検討委員会の報告書（案）を審議し、最終の報告書を作成するという日程である。その後、2月の定例市議会に市民厚生常任委員会協議会にその内容を報告し、3月に予定の第4回のあり方検討委員会で報告書を取りまとめて報告をするという日程で決まっているようだ。平成30年度に今年度検討したものの整理をさらに行い、ある

いは必要に応じて条例を改正し、平成31年度からの役員改選、いわゆる自治協議会委員の改選に合わせて、この検討を踏まえた新たな自治協議会の運営を実施するとの説明があった。この日程については、全員了解した。

区自治協議会のあり方検討の方向について、参考意見の聴取を全区回答を取りまとめ、新潟市の自治協議会あり方検討委員会に参考意見の聴取全区回答の取りまとめを提出し、それをどうとらえるかの協議を図った。本日、机上に配付している資料4をそのとおり、あり方検討委員会に報告するというので一致し、判断をあり方検討委員会にゆだねるということに決定をしている。お手元の資料4の中には、各自治協議会ごとの集計数値、例えば、現状統一の全市統一のとおりが1、区の実情にあった組織が7、その他ゼロという数字でまとめられているが、これはこういう様式でまとめなさいという指示だったから、1や6や8という数字になっているが、その内容については、非常に多岐である。おのおのの区の自治協議会はほぼ全員が委員回答を寄せていただいたので、30人の委員であれば、大きく言えば30とおりの意見があった。ただ、この様式にまとめた結果がこうであったというだけに過ぎない。細部については、地域課長より報告していただく。

○事務局（川瀬地域課長） 資料4をご覧いただきたい。12月に市民協働課に回答した区自治協議会のあり方検討の方向性について、全8区分をまとめたものである。細かい内容については記載のとおりなので、私からは大きな方向性というか、選択肢の関係についてお話ししたいと思う。まず、「仕組み」についてである。委員構成・任期・定数、必ず自治協議会に意見を聴く項目等、組織のあり方をどうするかについてだが、7区が「区の実情に合った組織」を選択し、1区が「全市統一の組織（現行どおり）」を選択した。また、主な補足意見は、◎が多数回答の肯定的な意見になる。そして、○がその他の意見を載せているもので、それぞれ3件ずつ記載されている。

次に、「役割」についてである。自治協議会で話し合うテーマをどうするかという、「①意見提出」の項目では、6区が「区のことの特化する」を選択し、1区が「現行どおり」を選択、もう1区が「その他」となっている。この「その他」については、「現行どおり」と「区のことの特化する」の選択肢の意見がほぼ同数となったことから、選びきれなかった区があり、その区のことを「その他」ということに分類している。また、主な補足意見としては、先ほど◎の肯定意見が7件、○その他の意見が3件記載されている。

次に、全市的な施策に係る行政からの説明、報告が、今後必要かどうかという「②地域代表」の項目では、7区が「案件によっては必要」を選択し、1区が「必要（現行どおり）」を選択した。主な補足意見は、◎の肯定意見が7件、○のその他の意見が3件記載されている。

次に、現在、委員の皆様から企画、立案、実施まで主体的にかかわっていただいている自治協議会提案事業について、今後はどこまでかわるかという「③実施主体」の項目では、8区すべてが「現行どおり」を選択した。補足意見としては、◎の肯定意見が5件、○のその他の意見が3件記載されている。

2月9日に開催される「新潟市区自治協議会のあり方検討委員会」にこの資料が提出され、ご審議いただくことになっている。説明は以上となる。よろしく願います。

○議長（小田会長） 以上が区のあり方検討委員会に提出する意見聴取の回答、まとめの説明であった。もちろん皆さん方からちょうだいしたご意見30とおりも、私ども正副会長、事務局で慎重に精査し、まとめ、提出してある。その内容についても、あり方検討委員の皆さん方からつぶさに見ていただき、参考にさせていただくことになっている。細部は申し上げない。

今の説明について、質問、あるいはご意見があれば遠慮なく発言をいただきたい。各8区の会長も、冒頭のあいさつに申し上げたとおり、自治、分権、協働の根幹にかかわるあり方の検討だったので、大変重く受け止めているし、激しい議論で会議を進めた。初めて政令市の中で自治法に基づいて、この自治協議会が設立されて10年を迎えたわけだ。果たしてその10年のあゆみの中で、どれだけの役割を果たせたか。冒頭、申し上げた自治がどれだけこの自治協議会を媒体にし、新潟市の中に深化していったか。現篠田市長の3期目の就任を受けて、自治の深化という大変すばらしい表現を新潟市が持ち始めた。おのおのの自治協議会、あるいはコミュニティ協議会、おのおのの市民の団体の皆さん方、その自治の深化に向けて、大きくかじを切ったところも

多かったと思う。さらなる自治の深化がこの20市の政令市の中で、新潟市がどれだけ先鞭を切れるか、あるいは新たな旗をどこまで高く掲げることができるか。そういう試金石が今回のあり方検討委員会だろうと私は認識しているし、その考え方に基づいて、いろいろな発言をしている。どうかご意見があったらちょうだいしたいと思う。残念ながらいただけないので、次回の会議までおのおのこの今の報告書を検討していただいて、さらにまた今後の全体会議で、全容があり方検討委員会からお示しされるはずなので、なお議論を加えていければと思う。この問題はこれで終わらせていただく。

(4) その他

○議長（小田会長） 次第第3（4）その他について、まず事務局からあるか。

では、田村副会長、先日のにいがた南区創生会議の全体会にご出席である。創生会議の概要について報告をいただきたい。

○田村委員 先日23日の夜、この場所で、創生会議があった。そこに出席したので、概略をご報告申し上げます。

議題は三つあったが、一番目は、南区の活性化についてということで、3部会あり、その一つであるが、それについては今年だったか、学習館で三条のマルシェの話があったわけだが、これも南区版の出店というか、そういうものをやろうではないかということで、会長からも話があり、南区の特色ある区づくり事業ということで話があった。そういったことで第1回というか、そういうものが7月29日、ちょうど4と9の白根の「市」に合わせてやったほうがいいじゃないかということであり、それについてももう少し検討を深め、どのようにやったほうがいいのか。あるいはマルシェというものを三条マルシェの話があったが、下田地域でやったり、点々といろいろな地域でやっている。そういったことで、南区では、月潟、庄瀬、新飯田で「市」が開催されているので、そういうものと合わせてどうなのかという意見も当日、出された。

2番目の関係だが、部会の報告についてということで、まちなか活性化、交流推進の部会、交通部会ということで、私どもの自治協議会に大体、沿ったような部会であり、創生会議のメンバーとしては非常に若い人たちが、あるいは実践家がいるので、活発な意見が出されている。まちなかの関係については、先ほどのマルシェの関係が出され、年4回くらいやったほうがいいじゃないかという話であった。

交流推進部会だが、まちなかの活性化については、やる人、JCの皆さん、それはお宝であると。白根市のお宝であるというようなとらえ方をしながら、おのおの考えを出していったらどうかというようなことで、おのおののお宝のカードを作って、そしてこういうものはこの人が得意だということか、そういうものをどこかで配布したらどうなのだというので、まだ具体的にはなっていないみたいだが、作成したいというような説明があった。

交通部会については、自治協議会でも同じことだが、利用されやすい交通機関というか、そういう区バス、あるいはレインボー、みんなそうだが、そういうものを考えようということと、少し思ったのが、かつてこの自治協議会にも出たことがあると思うが、ターミナル方式、いわゆる拠点を設けて、今、潟東に新潟交通の営業所が行っているが、ターミナル的な機能を持たせるところへ行けば、どこの方面でも、どこへも行けるというようなことが出されていた。これはいいことだなと思ってきたが、そういうものをやりたいということで、いずれにしても、商店街の活性化、あるいは南区の活性化ということでやっていきたい。

その他だが、今の第3部会だったか、笹川邸とアグリパークに観光案内看板を立てるということがあるが、そういうものもして、積極的にやっていきたいということなので、よろしく願います。

もう一つ、最後のほうであったが、海津会長から、極端に言うと、民間業者の地位を取り込んで、そして丸投げではなく、いいところというか、そういうものを取りながら、こういう創生会議の事業としてもいいのではないかとということで出されていた。これらも自分たちだけでなく、ほかのアイデアも取り入れるということで非常にいい考えではないかということであり、私は出席したわけだが、若い人たち、行動力のある人、実践家であるので、非常にいい意見が出たという気がした。大那さんもいただろう。いなかっただろうか。いなかっただろうか。

○大那委員 23日は体調を崩しており欠席した。

○田村委員 メンバーの方もここにいるので、私のほうで説明が足りない分は補足していただき、できるだけ連携したうえでやっていきたいと思っているので、よろしくお願いします。

○議長（小田会長） 中野委員は出席していたか。

○中野委員 体調不良で休んだ。

○議長（小田会長） 和泉さん、補足があればどうぞ。

○和泉委員 創生会議のまちなか活性化部会の部会長をさせていただいている和泉である。

今、田村さんがおっしゃったような、大体、そんな感じの内容だったが、自治協議会では先輩方がたくさん経験を積んでいらっしゃるって、そういった形で話し合いをされているということで、創生会議では実行部隊という形で若い力で何とかいろいろと皆さんで検討して、今、活動している感じである。一応、まちなか活性化部会でのマルシェも考えているし、あとは創生会議全体でのマルシェという形で、それぞれの部会が段階を踏んで実現に向けて今、活動してまいるので、そのような形で報告させていただいた。よろしくお願いします。

○議長（小田会長） 続いて、事務局から報告いただく。

○中村健康福祉課長 私からは、今日の新聞にも紹介されていたが、南区の地域の茶の間天昌堂サロン、新潟市の地域包括ケア推進モデルハウスということで、昨年1月にオープンして、昨日、1周年ということでイベントを実施させていただいた。昨日については、NAMARAの代表である江口さんのトークショーを実施して、健康に関する話題でトークをしていただいた。また、近隣のお年寄りをはじめ、多くの方からおいでいただき、なごやか中で一日過ごさせていただいたところである。私どもからも各地区で茶の間の実施などをお願いしているところだが、地域包括ケア推進モデルハウス天昌堂においていただき、各地域での活動の参考にしていただきたい。今後ともよろしくお願いします。

○議長（小田会長） ほかにあれば発言いただきたい。

○小柳委員 まちづくり活動サポート事業の募集申込みだが、これについて私ども、大郷地区、鷺巻地区で毎年、夜祭りというものをやっているが、既存のそういった市からの補助を受けて行っている事業に対して、これをまただいぶ不足分があるので、そういったところにも重複して利用できるものかどうかと思い、お尋ねする。

○事務局（川瀬地域課長） 要項にもあったかと思うが、既存の事業をただ続けるだけということになると、非常に多くの事業が対象になってしまうので、そこにも書いてあるように新規事業、または既存の事業であっても拡充とか、何か新しいことを取り入れて、新たな事業という位置づけで出させていただくことになるので、同じ事業を継続は、申し訳ないが、対象にはできないということになる。

○小柳委員 拡充であればいいのか。

○事務局（川瀬地域課長） そこはまた審査になると思うが、基本的には同じでなくて、何か違う要素を取り入れたり、大きく拡大するとか、何か違いをはっきり出させていただき、そして一番大事なものは、南区の課題を解決するという目的に合致するということと、審査基準にあった継続性など三つの要素があったと思うが、ああいうものを加味していただければと思う。あとは審査会の中で判断していただくことになるかと思う。

○議長（小田会長） よろしいだろうか。ほかにどうぞ。非常にやる気さえあれば、使い勝手のよい制度だから、ただいま報告のあった創生会議であるとか、小柳委員のように地元でのいろいろな活動をなさっているNPOの団体だとか、利用を促進していきたいと思っている。ないようだ。年が改まったら、私のところに今までにないさまざまなお話が届くようになった。例えば、昨日も新飯田地区の皆さん方から、私どものところでも、学童保育が欲しいと。何とか実現できるように勉強を進めたいと思う。こんなご婦人のお話も飛び込んできた。あるいは庄瀬地区からも飛び込んできた。味方からもさまざまなお話をちょうだいしている。今までになかった地域の皆さん方が、私たちの、あるいは僕らの村や町をどう作り上げて元気にしていくか。いろいろな観点から考えはじめられたようである。大変私もいろいろなところからお話をちょうだいして、難しいのは本当に難しいことであるが、そういう機運が南区のさまざまのところから盛り上がってきたということを大変うれしく思っている。今日も議題が少なかったが、活発なご意見を

いただいた。そして、熱心に傍聴してくれる市民の方もお迎えできた。そして、今日は3名の議員が傍聴してくれていた。8区の会長会議の中でも議員と議会と私たち自治協議会のありようはどうあるべきか。このことについても、さまざまなお意見を交わしたところである。今後とも、今元気になりつつある区内の市民の皆さん方と、そして頑張ってくれている後ろに控えている行政の皆さん方と、そしていろいろな観点からご審議をいただいている議会の皆さん方。いずれもきちんと協働の和を広げて、平成30年度へ進んでいければと思っている。今日も熱心な議論をちょうだいしたことを感謝して、第10回の南区自治協議会を閉会する。ありがとうございました。

4 次回全体会の日程について

- 議長（小田会長） 次回の会議の開催確認をお願いします。
- 事務局（川瀬地域課長） 次回は、2月28日（水）2時からここ講堂でまたお願いします。
- 議長（小田会長） 次回の開催は月末になるが、2月28日（水）午後2時から当会場において開催する。万障差し繰りをお願いします。

5 閉会

- 議長（小田会長） 以上で、第10回南区自治協議会を閉会する。

(午後3時25分)